

令和 4 年 10 月 12 日

報道関係 各位

進化型実務家教員養成プログラム

実施責任者 鶴飼 宏成

☎ : 052-872-5733

名古屋市立大学教務企画室

室長 森川 英俊

☎ : 052-872-5801




TEEPシンポジウム・ワークショップ2022開催について
実践知を教育にいかす探究授業を「つくる。」
～新たな未来を牽引する人材を育てるには～

名古屋市立大学を中核校とするコンソーシアムが2019年度文部科学省の事業に採択され、「進化型実務家教員養成プログラム (TEEP)」を実施しております。本事業では、経済産業省が2022年5月に発表した「未来人材ビジョン」で唱えられている人材育成を2019年度より課題として認識し、人材育成に資する大学等における教育を追究し、実務家教員養成を行ってきました。本年度シンポジウムでは、「つくる。」に焦点を当て、未来を牽引する人材を育てる教育の場や教材づくりを検討し、ワークショップでは、専門領域別に実践知を教育に生かす探究授業づくりを検討します。

この企画を市民の皆様幅広く知っていただきたくご案内申し上げますとともに、是非ご取材いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

1	日時	令和4年11月16日 (水) シンポジウム 14:00～16:00 ワークショップ 18:00～19:00	進化型実務家教員養成プログラム
2	概要	別添のとおり	
3	開催方法	ZOOM によるオンライン開催	
4	申込方法	申込フォーム (https://req.qubo.jp/teep-consortium/form/lr5snJXS) より送信	
5	受付期間	令和4年10月17日 (月) から令和4年11月14日 (月) まで	
6	定員	150名 (先着順)	
7	参加費	無料 (ただし、通信料は自己負担)	
8	取材申込	担当者までご連絡ください。(担当: 伊藤・長澤 ☎052-872-5882) E-Mail: teep_office@sec.nagoya-cu.ac.jp	

※取材希望日の2日前 (土日祝日除く) までにご連絡をお願いします。

以上

●文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択され、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、高知県立大学、中京大学が連携するコンソーシアムで運営しています。

要予約 Zoomによる
オンライン開催

●Society 5.0(超スマート社会)に対応し、産業界の実践知と大学の学術知を融合させ、両者の架け橋となる高度専門人材が、進化型実務家教員です。

シンポジウム

14:00~16:00 | 参加費 無料 | 定員:150名(先着順)

10.17 MON 申込受付開始

URL▼
<https://req.gubo.jp/teep-consortium/form/lr5snJXS>

上記URLまたは右記QRコードのフォームよりお申込みください



実践知を教育にいかす 探究授業を「つくる。」

～ 新たな未来を牽引する人材を育てるには ～

産業界と教育機関が一体となって、今後必要とされる能力を備えた人材を育成することが求められています。多様な他者と協働しながら、新たな価値やビジョンを創造し、課題解決に取り組める人材を育てるために、実践知を教育にいかす方法を検討します。

プログラム

開会挨拶 14:00~14:05 浅井 清文 名古屋市立大学 副理事長・学長

来賓挨拶 14:05~14:10 森下 平 文部科学省 高等教育局専門教育課 専門職大学院室

話題提供 14:10~14:40

テーマ 「最近の動向:
未来人材ビジョンと実務家教員」

鴫飼 宏成 名古屋市立大学学長補佐 大学院経済学研究所 教授
TEEPコンソーシアム実施委員会委員長

パネルディスカッション 14:50~15:50

テーマ 「未来人材育成のために
～実践知の捉え方と学ぶ場づくり～」

パネリスト 芦塚 倫史 中京大学 スポーツ科学研究科 准教授

木下 真里 高知県立大学 看護学部 教授

小林 亮 岐阜薬科大学 先端医療薬学研究室 講師

笹野 寛 名古屋市立大学 医学研究科 教授

成田 互 東海学園大学 経営学部経営学科 准教授(TEEP修了生)

コメンテーター 山田 勉 名古屋市立大学 高等教育院 教授
TEEPコンソーシアム実施委員 基本コース担当

閉会挨拶 15:50~15:55

伊藤 恭彦 名古屋市立大学理事・副学長 大学院人間文化研究科 教授
TEEPコンソーシアム運営委員会委員長



ワークショップ

18:00~19:00 | 参加費 無料 | 定員: 専門コース別 各50名(先着順)

10.17 MON 申込受付開始

URL▼
<https://req.gubo.jp/teep-consortium/form/lr5snJXS>

上記URLまたは右記QRコードのフォームよりお申込みください



領域別に考える実践知の伝え方

～ 専門コースの各分野で実務知・臨床知を
教育に生かすには

4つある専門コースのうち、3つの領域において、多職種連携型PBLを企画・推進し、「探求力」を鍛錬する環境を作り、「自ら育つ」未来人材を育成するための実務家教員のあり方を検討します。実践知を学びの場に移転し、どのように伝えるべきかを領域別に考えます。

減災・医療コース

コース長 笹野 寛

名古屋市立大学 医学研究科 教授
名古屋市立大学病院 救急科 臨床シミュレーションセンター

こんな人材を育てたい!

- ① 各自の専門分野において、超急性期から慢性期・復興期までの災害時に、多職種と連携してケアできるように指導ができる人
- ② 減災・災害医療とこれに関連した国際法、行動科学、疫学、心理学、社会学などの専門分野の知識を持ち、災害時にリーダーシップを発揮できるとともに、指導ができる人

心理カウンセリングコース

コース長 神谷 栄治

中京大学 心理学部 教授

こんな人材を育てたい!

- ① 臨床心理学における実務的知見を生かした指導ができる人
- ② 心理的適応の困難な個人または集団に対し、専門的知識と経験にもとづく適切な援助をするための指導ができる人



スポーツ実務コース

コース長 種田 行男

中京大学 スポーツ科学部 学部長 教授

こんな人材を育てたい!

- ① 高い競技力を目指すアスリートへ強化としての指導ができるとともに、競技経験を大学や社会に発信してスポーツ分野の発展に努める人
- ② 教育現場や地域スポーツクラブにおいて、育成としての指導を理論やスポーツ科学に基づいて適切にできる人
- ③ 地域におけるスポーツの需要やその意義を発信し、普及事業を企画遂行できる人